

(様式2)

2021年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

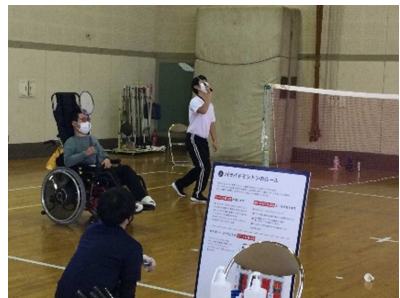
事業実施報告書

I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 静岡県 】

学校名【 静岡県立中央特別支援学校 】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	高等部生活3グループ(知的障害特別支援学校の教育課程) 職業グループ 高等部1～3年10名、中学部1～3年5名 計15名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(<input type="radio"/> 体育) ② 行事名() ③ その他() (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他()
4 目標 (ねらい)	・講師の講話を聞いたり技術を見たりしてパラバドミントンの魅力を知ることができる。 ・人生においての目標や、困難への乗り越え方を知り、自分に置き換えて考える一助とする。 ・生徒のスポーツに対する興味・関心の向上と生涯スポーツへの理解を深める一助とする。
5 取組内容	パラバドミントンの島田務選手を講師とし、体験教室を行った。 講話が20分程度、競技用車いすへの体験乗車が20分程度、島田選手と一緒にパラバドミントンを行う体験を40分程度という内容で実施した。講話では、障害を抱えることになった経緯からどのように立ち直ったのか、パラバドミントンに出会ったきっかけについて話していただいた。また、日常生活の様子について写真を交えて紹介していただいた。 競技用車いすの乗車体験では、実際に競技用車いすを操作させていただき、生徒たちは普段使用している車いすとの違いを体感していた。   島田選手と一緒に体験する場面では、島田選手の計らいにより参加した全生徒が島田選手と一緒にラリーを体験した。最後の質問をする時間では、生徒たちからどのように進路決定したのか、困難と向かい合ったときどのように乗り越えてきたのか等の質問があり、島田選手が丁寧に答えてくださった。



体験教室終了後に島田選手の自動車を見せていただいた。足が不自由な方でも操作できる仕様に変更された運転席を見せてもらったり、どのように自分で車に乗り込むのか実際に見せてもらったりして説明をしていただいた。



6 主な成果

- ・初めは緊張した様子の生徒たちであったが、島田選手の講話を聞いたり一緒に活動をする中で、自分から島田選手に気になったことを休憩時間に質問したり、質疑応答の時間では現在悩んでいる進路についての質問を自分で考えたりするあらわれが見られ、目的に迫ることができた。
- ・初めてラケットを握る生徒が多かったが、島田選手の前向きな人柄に生徒たちが引き込まれていた。ラケットに羽が当たらなくても何度でも挑戦している生徒たちの真剣な表情がとても輝いていた。今回の体験教室をとおして諦めずに挑戦する大切さや楽しさを生徒たち自身が感じることができた。

以下は参加した生徒の事後アンケートの抜粋である。

- ・印象に残ったことは「やるべきことはしっかりやる。」「悩んでいてもとにかくやってみる。」です。私は、どちらもうまくできていませんが、これから頑張っていきたいです。
- ・「この人生を楽しもう。」という言葉がとても印象に残りました。私も嫌なことがあってもポジティブに考えたいと思いました。
- ・メンタルの強さが印象に残りました。私は不安なことがあるとかなり悩んでしまいますが、島田選手は事故にあってもすぐに切り替えて車いすでの生活を楽しむと考えた聞き、私もそのようなメンタルの強さを身に付けたいと思いました。
- ・島田選手の話聞いて、できることを増やしていかなければならないと改めて感じました。これからできることを増やしていけるように頑張りたいです。

7 実践において工夫した点(事業の特色)

- ・スポーツの楽しさ、パラバドミントンの楽しさをより感じられるように、アスリートと一緒に活動する時間を設定した。
- ・競技用車いすと一般的な車いすの違いを知るために、競技用車いすに試乗する時間を設定した。
- ・基本的な感染症対策を徹底した。

8 主な課題等

特になし

9 来年度以降の実施予定

来年度以降も児童生徒のスポーツへの興味関心の広がり、夢を持って努力し続ける大切さを学んでほしいため、様々な競技の講師を招へいしての体験会の実施を検討していく。